

# 自治医科大学附属さいたま医療センター総合診療科

## 研修プログラム名・指導医名

### 2014年以前卒業医師対象プログラム

- ① 自治医科大学附属さいたま医療センター内科系シニアレジデントプログラム  
[http://www.jichi.ac.jp/center/sotsugo/na\\_program.pdf](http://www.jichi.ac.jp/center/sotsugo/na_program.pdf)  
(ア) 日本内科学会認定教育病院  
(イ) 日本内科学会総合内科専門医プログラム準拠  
(ウ) 日本老年医学会認定施設  
(エ) その他：<http://www.jichi.ac.jp/center/sotsugo/kan.html>
- ② 日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医後期研修プログラム Ver. 1: 自治医科大学附属さいたま医療センター総合診療科家庭医療後期研修プログラム（認定番号第 112-017号）
- ③ 日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医後期研修プログラム Ver. 2: SMC JMU 大都市と地域で総合医を育てる後期研修プログラム（認定番号第 015-087）
- ④ 自治医科大学附属さいたま医療センター「病院総合医（ホスピタリスト）」養成プログラム（認定番号第 513-028）
- ⑤ 新専門医研修プログラム（基本領域：内科、総合診療）申請済み

### 2015年以降卒業の医師対象プログラム

新専門医制度の開始に向けて、プログラム改訂中です。

指導医・スタッフ名：詳細は、[http://www.jichi.ac.jp/center/n\\_sougou/syokai.html#staff](http://www.jichi.ac.jp/center/n_sougou/syokai.html#staff)

菅原 齊	准教授、総合診療科長、卒後臨床研修室長		
福地貴彦	講師	石井 彰	助教、6B病棟医長
渡辺珠美	助教	松本葉子	病院助教
山下武志	病院助教	松沢迪子	臨床助教
吉田克之	臨床助教		

## 住所・連絡先

〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1丁目8-47番地

ホームページ：[http://www.jichi.ac.jp/center/n\\_sougou/index.html](http://www.jichi.ac.jp/center/n_sougou/index.html)

TEL/FAX：048-647-2111/048-648-5188

E-mail：[hsmdfacp@omiya.jichi.ac.jp](mailto:hsmdfacp@omiya.jichi.ac.jp)

記載者：菅原 齊

## 研修プログラムの目標としている医師像

「タフ」で「グローバル」な総合医を目指しています。

我々がめざしている総合医のアイデンティティーを図1に示します。総合病院には、高度に専門分化する専門医だけではなく、「最良の内科的マネジメント」を提供するために、「統合していく専門医」としての総合医が必要です。すなわち、総合医は、不特定の問題に対して実践と省察(Reflection)から得られる暗黙知や通い合う“心”を共有し、患者・家族と宙吊り状態を共に耐えることができる「Reflective Internist (省察的内科医)」です。ここでの省察とは、カンファレンス、コンサルテーションや自己学習を通じて、自己の診療を振り返り、次の診療に生かしていくことです。

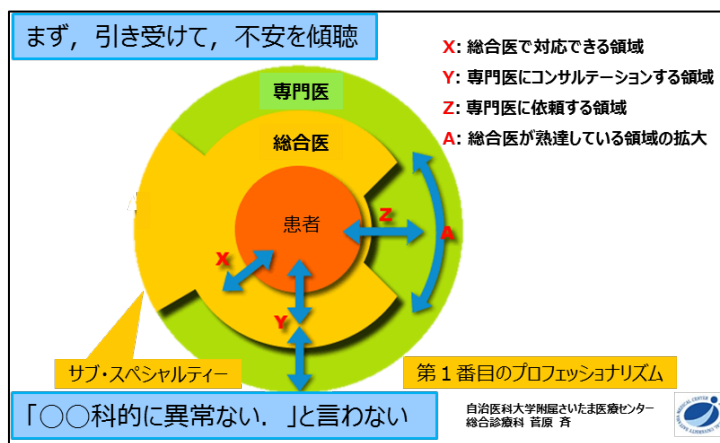
図1 総合医のアイデンティティー

総合医には、特定の臓器や疾患に偏らない医学の幅広い分野の基礎的な知識・技能・態度に加えて「得意とする専門分野(Subspecialty)」があり、どのような患者も「まず、引き受ける」という気概があります。

総合医は、自分自身の臨床能力の向上(自己完結できない疾患・病態(A)の範疇が少なくなるように)に努力し、自分で解決できる疾患・病態(X)と専門医の協力が必要な問題点(Y、Z)を的確に判断します。

「最良のマネジメント」とは、保健・医療・福祉・介護制度の枠組みの中で、総合医の思考力、判断力、医療情報、医療技術を駆使して患者の主要な訴えを少しでも改善し、患者の生活を支えるための方略です。

総合医は、連携のスペシャリストとして、患者、家族だけでなく院内や地域の医療スタッフとのコミュニケーションと調整能力を発揮します。また、慢性疾患を有する患者、家族の生活を支えるために、退院支援カンファレンスを適宜実施します。



総合医のキー・コンピテンシー(図2)には、次の10か条があります。

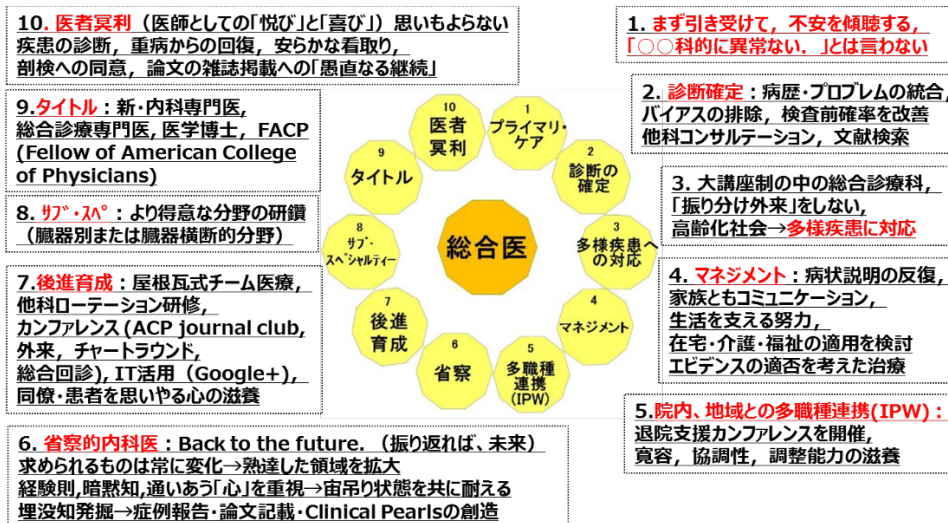


図2 総合医のキー・コンピテンシー10か条

## スタッフ人数

8人（男性5人、女性3人）

## レジデント人数

初期臨床研修医：2人から3人/ローテーション（1か月から3か月）

後期臨床研修医：1人から2人/ローテーション（1か月から3か月）

## 当直

月2回から4回（内科病棟当直または救急当直：当直明けの正午までに帰宅する義務あり）。土日は、当番制。

## 診療科独自の病床数

南館6B病棟の17床（呼吸器科、内分泌代謝科との混合病棟）

## 研修終了後の主な進路

附属さいたま医療センターでの昇任、社会人大学院、大学院、自治医科大学、東北大学、さいたま市民医療センター、市立旭川病院、ハーモニークリニックなど地元医療機関など

## 勉強会やカンファレンスの開催曜日・時間とその概要

### 1) 総合回診：総合医学1の合同カンファレンス

- 総合診療力を磨く「40」の症候・症例カンファレンス <http://www.nankodo.co.jp/g/g9784524267378/>

### 2) Fujimoto教授との教育カンファレンス、回診

- ワシントン州立大学医学部名誉教授Fujimoto先生とのカンファレンス等：3か月に2週間連続開催

### 3) 南館6階A・B病棟合同カンファレンス

- 内科系病棟（血液内科、腎臓内科、リウマチ膠原病科、総合診療科、呼吸器科、内分泌代謝科）合同開催

### 4) 症例カンファレンス&PBL

- 患者情報の共有、治療方針の確認、コンサルテーション、見逃しプロブレムの防止

### 5) 病棟多職種カンファレンス

- 看護師、MSW、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語治療士との Inter Professional Working (IPW) の実践

6) 神経内科合同カンファレンス (随時)

- 神経系疾患の新入院患者のプレゼンテーション、Attending Rounds、神経所見の確認

7) チャート・ラウンド

- 新入院患者のフル・プレゼンテーションと回診、既入院患者のチャート・ラウンド

8) Takeover カンファレンス

- 週末の治療方針の引き継ぎ、急変時対応の確認

9) ミニレクチャーと ACP Journal Club

- 総合診療に関連したミニレクチャーと ACP Journal Club の輪読
- 内容 : EBM, ACP Journal Club とは?、埋没知、総合医の役割、総合診療科の特徴、検査前確率、尤度比、検査後確率、RR, RRR, ARR, NNT、鑑別診断の考え方、Epley 法実技、Modified Valsalva 実技、文献検索の方法 (MESH, Clinical Queries)、文献管理 (Mendeley, Google Scholar)、サルコペニア、ロコモティブ症候群、フレイル、老年症候群、ポリファーマシー、がん社会を診る、エンド・オブ・ライフケア

10) Teaching カンファレンス

- シニアレジデント向けの外来対応スキルアップにつながる症例提示とディスカッション

月	火	水	木	金
	8:00 神経カンファ	8:00 病棟合同カンファ		8:15 ジャーナル・クラブ
9:00 モーニング・カンファ (Dr. Fujimoto)				9:00 モーニング・ラウンド (Dr. Fujimoto)
				11:00 PBL (総診BSL 学生)
	14:00 PBL (総診BSL 学生)		14:00 ACP ジャーナルクラブ	12:00 外来カンファ
15:00 DI		15:00 チャート・ラウンド	14:15 ミニ・レクチャー1	13:40 病棟多職種カンファ
16:00 チャート・ラウンド	16:00 チャート・ラウンド	16:00 総合回診	16:00 チャート・ラウンド	16:00 申し送りカンファ
			17:30 ミニ・レクチャー2	

## 具体的な研修内容紹介

1) 次のようなブランドがある総合診療科で研修します。

- ① 唯一 : 大学附属病院の大講座制の中の総合診療科です。日本で唯一です。専門診療科の垣根が低いです。
- ② 頂点 : 幅広く多様性に富んだ疾患が対象です。剖検率 30%以上を目指しています。
- ③ 先駆者 : 1996 年のホスピタリスト出現以前の 1988 年に創設された総合診療科です。

2) 入院診療 : 図 3 に示すような屋根瓦方式のチーム制です。対象疾患は、図 4 に示すように幅広く多様性に富んでいます。

- 3) 外来診療：振り分け外来ではありません。完全外来紹介予約制の初診外来を週1回担当します。診療終了後に指導医との振り返りを行います。
- 4) 教育：“Teaching is Learning.”の精神で、初期臨床研修医、自治医科大学医学部4年生の学生・ドクターへの適切な助言をお願いしています。
- 5) 研究：症例発表、症例報告、臨床研究、科研費研究 (<https://kaken.nii.ac.jp/d/p/26460916.ja.html>) を指導しています。2004年からの実績は、学会発表102回、和文論文18編、英文論文14編です。

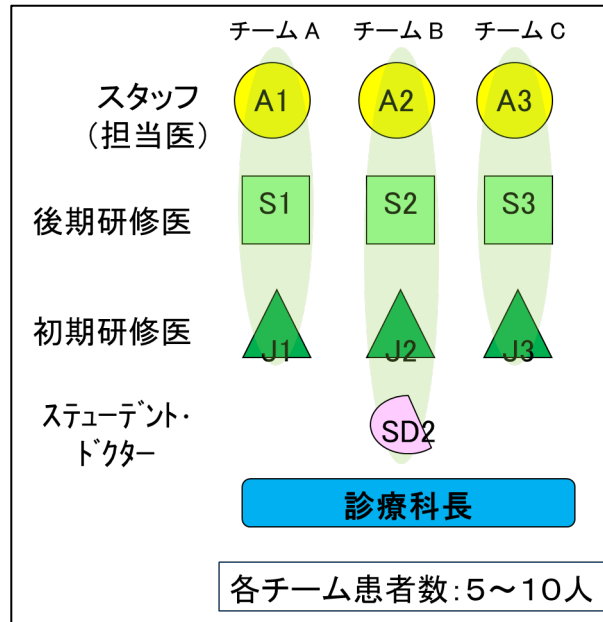


図3 入院診療チームの編成

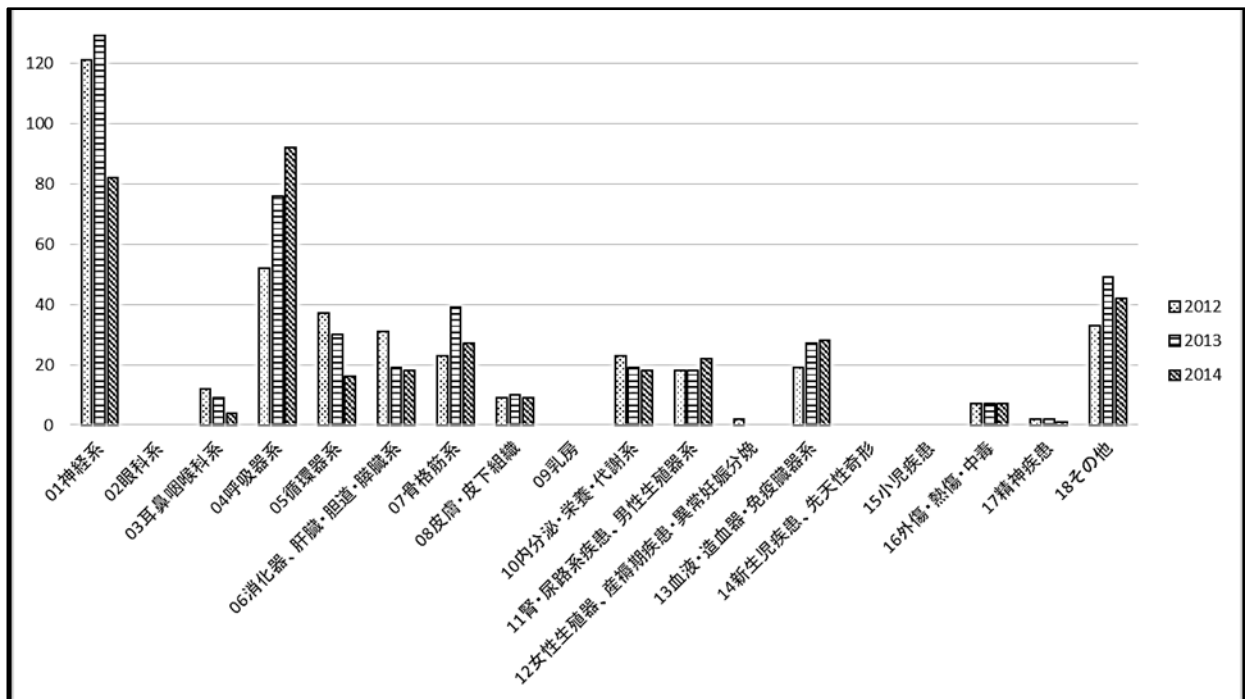


図4 MDC分類でみた患者数の推移